

令和4年度
教職課程
自己点検評価報告書

令和5年3月
共愛学園前橋国際大学
学長 大森昭生

目 次

I 教職課程の現況及び特色	1
II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価	
基準領域 1	
教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく 協働的な取り組み	3
基準領域 2	
学生の確保・育成・キャリア支援	5
基準領域 3	
適切な教職課程カリキュラム	8
III 総合評価	12
IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	13
V 現況基礎データ一覧	13

I 教職課程の現状及び特色

1 現状

(1) 大学名：共愛学園前橋国際大学

国際社会学科

国際社会学部

・国際社会専攻

英語コース

国際コース

情報経営コース

心理・人間文化コース

・児童教育専攻

児童教育コース

所在地：群馬県前橋市小屋原町 1154-4

(2) 学生数及び教員数（令和4年4月1日現在）

学生数：国際社会学部

英語コース	214 人
国際コース	269 人
情報経営コース	303 人
心理・人間文化コース	283 人
児童教育コース	133 人
合計	1202 人

教員数：国際社会学部

英語コース	6 人
国際コース	7 人
情報経営コース	6 人
心理・人間文化コース	6 人
児童教育コース	6 人
合計	31 人

2 特色

本学の教職課程は、「小学校教諭一種免許状」「中学校教諭一種免許状（英語、社会）」、「高等学校教諭一種免許状（英語、地理歴、公民）」の認定に至る。本学の教職課程認定は下記の通りである。

■小学校教諭一種免許状

【免許状の種類及び教科】	【課程をおく学部・学科】
小学校教諭一種免許状	国際社会学部国際社会学科

■ 中学校教諭一種免許状

【免許状の種類及び教科】	【課程をおく学部・学科】
英語	国際社会学部国際社会学科
社会	国際社会学部国際社会学科

■ 高等学校教諭一種免許状

【免許状の種類及び教科】	【課程をおく学部・学科】
英語	国際社会学部国際社会学科
地理歴史	国際社会学部国際社会学科
公民	国際社会学部国際社会学科

教員免許状取得のため本学における教職課程指導の特色は下記に示す。

- (1) 「教職課程履修登録」の導入
- (2) 『教育実習の手引き』に基づく指導
- (3) 「履修カルテ」を用いた指導
- (4) 「教職支援室」における個別指導・進路指導
- (5) 「教職センター」における履修指導や教育実習指導

上記の教職課程指導に基づき、教職課程履修学生に対して、教職を志すことへの心構えや教員として身につけるべき必要な資質・知識技能、教職課程の履修や学修すべき内容について指導しています。さらには、学外での教育実習・介護等体験・学校支援ボランティア・進路指導やキャリア教育指導において、学年ごとに、個別指導等を踏まえた詳細な指導を実施し教員養成に取り組んでいる。

Ⅱ 基準領域ごとの自己点検評

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

◆基準項目1－1 教職課程教育の目的・目標を共有

【状況説明】

1888年に設立され群馬県において最も歴史のある私学である共愛学園は、聖書の言葉である「共愛＝共生」を理念にキリスト教主義を柱として教育活動を展開してきた。1999年には共愛学園女子短期大学を改組し共愛学園前橋国際大学を開学させ、国際社会学部を設置した。

本学の教員養成は地域の人材を育成するという教育の目的に基づいて設置している。それは、学校教員とは、最も地域と密接なかかわりを持ちながら職務に従事する職業の一つであり、地域と共に歩み続け、未来の地域人材の育成に直接的に携わる、重要な地域人材であるという認識による。ゆえに、いつの時代にも教員に求められる資質能力としての5項目（「教育者としての使命感」「人間の成長・発達についての深い理解」「幼児・児童・生徒に対する教育的愛情」「教科等に関する専門的知識」「広く豊かな教養」）に、今後特に求められる3項目（「地球的視野に立って行動するための資質能力」「変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力」「教員の職務から必然的に求められる資質能力」）を加え、さらに地域に根ざした教育活動をより一層充実させることをとおして、質の高さと知見の広さを兼ねそなえ、地域と共に歩むことのできる教員養成を目ざしている。

教職課程の目的・目標および目指す理想の教員像について、教職課程のカリキュラムを編成している。教職課程教育に必要な情報は定例会議において恒常的に共有し、教員を養成しているという意識を十分に持ち、教職課程教育の計画的実施は支障なく実行されている。

【長所・特色】

本学では、実践的かつ実質的なカリキュラム、そして、地域における学びや国際舞台における学びを多層的に提供している。カリキュラムについては、学部学科全体で約350科目700超のクラスを開講しており、どの免許種を取得する学生にとっても幅広い学問領域を学ぶことができる環境を整えつつ、例えば、小1種免を取得する学生は、9教科全ての教科教育法はもちろんのこと、教科概説（教科に関する科目）についてもなるべく9教科を履修するよう指導している。

また、各授業科目の到達目標および成績評価の基準・配点は、シラバスに明記されており、成績評価に関する全学的な基準の評価と点数、GPAについては『履修ガイド』に記載されている。

教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて教職課程のディプロマポリシーに基づいて定められており、達成状況は「教職履修カルテ」において可視化されている。

【取り組み上の課題】

全学的には、児童教育コース以外の教職履修者における年次ごとの到達目標を教職関係ガイダンスで周知する機会が少ない。教員養成に対する理念や育成を目指す教員像とともに、2年生以上の学生に対しても、教職関係ガイダンスや教育実習事前指導など、あらゆる機会に周知していくことが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 本学ホームページ 教員養成に対する理念及び認定課程設置の趣旨等
<<https://www.kyoai.ac.jp/career-support/teacher-training/>>
- ・ 2022年度 シラバス
<<http://sy.kyoai.ac.jp/>>
- ・ 2022年度 履修ガイド 「教育職員免許状取得に関する要項」
<https://www.kyoai.info/?page_id=544> (学生用サイト)

◆基準領域1－2教職課程に関する組織的工夫

【状況説明】

本学は、文部科学省が示す教職課程認定基準を踏まえ、教職課程を担当するにあたり十分な教育研究業績を有する教員および学校等において教職経験のある教員を、厳正に配置している。

2022年4月に教職課程運営センターと教職支援グループを統合して教職センターを設置。充足した協働体制を構築し以下のような業務を担当している。

1. 教職課程科目の調整
2. 教職課程認定申請および教職課程変更申請
3. 教育実習・介護等体験等の企画及びサポート
4. 教員就職指導室の運営および教員志望者への就職支援
5. 全国私立大学教職課程協会、関東私立大学教職課程協会等への参画
6. 教員免許状取得ための申請サポート
7. その他センターの目的達成に必要な事業

教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD（ファカルティ・ディベロップメント）やSD（スタッフ・ディベロップメント）の取り組みを全学的に展開している。

実践的な領域の科目一部を除き、すべての科目に関して学期ごとに授業評価アンケートを実施し教職員へフィードバックしている。また、特に教科及び科目の指導法に関する科目と教育の基礎的理解に関する科目については、本アンケートにおいて科目ごとに達成すべき目標をディプロマポリシーに基づいて設定・記載し、学生の学修目標を明確化している。

【長所・特色】

教職センターを設置することにより、教職課程履修者に関して、カリキュラムの管理、教育実習・介護等体験の事前・事後指導及び実習校との対応、教員就職指導などが一元的に管理され、教職課程及びそれに関連する事業が組織的・効率的に実施されている。同センターは教職課程の運営を担う全学組織として、教務学生部及び入試広報部職員、各コース教員、教職支援室によって構成されている。このセンターで教職課程運営の大枠に関する事項を審議・決定しており、全学的な協力体制による業務の適切な役割分担が可能になっている。これにより同センターの意思決定等の責任に対する全学からの参画、及び各所への円滑かつ効率的な伝達が担保されている。

教職支援室を設置し、必要図書を収蔵するとともに、模擬授業や学生の自学自習用に提供している。また、パソコン室や電子黒板設置教室を複数設置し、ICT教育への対応に努めている。

【取り組み上の課題】

教職課程を履修する学生に関して必修の授業との時間割上の重複が出ないように、あるいは一部の時間帯の講義に受講希望者が偏らないように配慮することなど、学生たちが教職課程の計画的な履修を積み重ねることのできるための調整が必要である。

また、ICT機器については自学自習用に設置されている教室数が少なく今後増加の必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 本学ホームページ 教員養成に対する理念及び認定課程設置の趣旨等
<<https://www.kyoai.ac.jp/career-support/teacher-training/>>
- ・ 2022年度 シラバス
<<http://sy.kyoai.ac.jp/>>
- ・ 2022年度 履修ガイド 「教育職員免許状取得に関する要項」
<https://www.kyoai.info/?page_id=544> (学生用サイト)

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

◆基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成

【状況説明】

入学者受け入れの礎となるAP(アドミッション・ポリシー)には、大学としての理念に基づき、本学が求める人材像が分かりやすく示され、各学部教授会において共通認識を図っている。HP、『大学案内パンフレット』、『入試ガイド』、『学生募集要項』等、印刷媒体及び高校教諭対象入試説明会、地域別ガイダンス、高校内説明会、オープンキャンパス等を通じて、各学部が志願者に求める資質・能力を公開している。

入試において評価指標を定め、入学者の質確保を担保するとともに、多様な人材確保のために多数の選抜方法を設定している。

本大学のホームページや教員養成の取組に関する記事を掲載し、教員養成への理念や卒業後の姿を伝えている。また、学生の確保については、高校への出前授業やオープンキャンパスでの模擬授業を通じて、小学校教諭・中高校教諭の魅力語り、教職に就くための学びとして本学科の学びが有効であることを広報している。オープンキャンパスでは、教職専任教員及び職員、在学中の教職課程履修学生が教職を目指す在校生が高校生の相談にのる機会を提供している。

【長所・特色】

教職センター及び入試就職課の活動により、教職を担うべき適切な学生の確保・育成は、大学の長所を生かして組織的な取り組みが行われている。教員就職を志す学生に対しては、入学案内、入学時、在学中と情報提供や指導・支援を受ける機会が組織的に一貫して提供されている。

入学時及び毎年4月初めに行われる履修開始時のオリエンテーションにおいて、本学教職課程が目指す理想の教員像を示している。教職課程ガイダンス時に本学科が育成しようとする教員に求められる資質能力を周知するとともに、必要に応じて個別指導しており、「教職履修カルテ」による自己評価にて結果を累積し、授業での学びや自らの学修の発展について振り返りの場を用意している。

実技系科目、ゼミ、教職実践演習などの授業では、演習の効果が最大限に発揮されるよう少人数での授業ができるように工夫している。

また、学生たちは、授業やボランティア活動、サークル活動などを通じて多様な進路を目指す仲間と交流することにより、多くの職業への進路と比較しつつ広い視野から自らの教職志望について省察することができる。そのようにして視野の広い、また教育界以外にも広い人的なネットワークを有する教員が育成されている。

【取り組み上の課題】

多様な進路を目指す学生たちが授業やボランティア活動などを通じて交流し、また学生たちに多様な体験の機会を提供していることは利点である。しかし、一方で、入学当初及び教職履修開始時は教員就職を志望していたものの、多様な世界に視野が広がることにより他の職業への関心が高まり、教員以外の職業へと就職する学生も少なくない。

4年次5月～6月に多い教育実習期間中は民間企業への就職活動を禁止しているため、教育実習を優先しつつも、一般企業等への就職活動も両立させることを希望する学生への有効な助言等が必要とされる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・本学ホームページ

教職支援室>教員採用試験実績

<<https://www.kyoai.ac.jp/career-support/teaching-support-office/>>

情報サイト>入試要項

<<https://ad.kyoai.ac.jp/require.cgi>>

- ・2022年度シラバス

「学校フィールド学習 A」

<<http://sy.kyoai.ac.jp/2023/906900.pdf>>

「キャリアプランニングⅣ（教職）」

<<http://sy.kyoai.ac.jp/2023/830401.pdf>>

・2022年度履修のガイド

<https://www.kyoai.info/?page_id=544>（学生用サイト）

◆基準項目2－2 教職へのキャリア支援

【状況説明】

教職へのキャリア支援は教職支援室を中心に行われている。

教職支援室には、学校の管理職等を経験した元教員2名が専任のアドバイザーとして配置されているおり、学生に対する情報提供や相談、講演会・ガイダンス等の企画・運営を担当している。また同室には群馬県および近隣県の教員採用の過去問題集や参考書などが準備されている。学生たちは教職支援室を日常的に訪問することができ、教員就職に向けて、あるいは受験を希望する地区の教員採用状況などについての情報を得ることができる。

同室で学生のキャリアへの意欲・状況を把握することに努めており、「教職支援カード」を活用した面談・助言や随時相談を行っている。それにより目指す教師像に近づくための課題を学生と共に確認している。また、教職に就くための各種情報（教職関係の新聞、雑誌、教採問題など）を整理し学生に提供している。

【長所・特色】

教職支援室にて学生の希望に基づいた関係機関による講演会、教職ガイダンスの開催、通年での面談、相談を実施している。

教員採用試験対策として3年次夏より教採対策講座を毎週及び長期休暇期間は集中的に開講し、冬からは教採模試および面接練習を実施しており、4年次の採用試験に向けての学生たちの不安を軽減させ、かつ必要な知識を整理させるなど効果的に機能している。

また、教職への適性を学生自身が見極めるため、近隣の前橋市立芑井小学校と連携し1週間実習の「学校フィールド学習」を推奨している。

【取り組み上の課題】

教職支援室を利用する学生は、当初より教員就職を強く志望している学生に限定される傾向がある。また、利用時期についても、3年次秋頃からが多い。教職課程の履修を開始した低学年次の学生たちに対する同室の活動に関する周知を図り、より有効に活用することで途中リタイアを減らし、免許取得及び教職従事者の増加が見込まれる。

<根拠となる資料・データ等>

・本学ホームページ

教職支援室＞教員採用試験実績

<<https://www.kyoai.ac.jp/career-support/teaching-support-office/>>

情報サイト＞入試要項

<<https://ad.kyoai.ac.jp/require.cgi>>

・2022年度シラバス

「学校フィールド学習A」

<<http://sy.kyoai.ac.jp/2023/906900.pdf>>

「キャリアプランニングⅣ（教職）」

<<http://sy.kyoai.ac.jp/2023/830401.pdf>>

・2022年度履修のガイド

<https://www.kyoai.info/?page_id=544>（学生用サイト）

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

◆基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

【状況説明】

教職コアカリキュラムに対応した教育課程を編成し、科目の系統性を履修系統図に示している。また、主体的・対話的で深い学びを実現すべく、プレゼンテーションやグループディスカッション、模擬授業等アクティブラーニングを行い、課題を発見し解決する力を養っている。

ディプロマポリシーに基づく学修指標をシラバスにも明示しており、教育課程における科目の履修系統を吟味し、グローバル化する社会においても具現化すべく、総合的、体系的、有機的な教育を展開している。

また、学科の教育目標を踏まえ、教職課程科目の相互とその他の学科科目等との系統性の確保を図りながら、今日の学校教育に対応する内容の工夫を行っている。

授業においては、教材作成や評価基準作成など、ICT機器を活用して情報活用能力を育てる工夫をしている。

【長所・特色】

本学では教職科目除外とした一学年最大44単位のキャップ制を採用している。教職科目は卒業単位のキャップ制から外れているが、学生には授業当たりの学習時間を確保できるよう授業外学習を設定・管理している。卒業要件に必要な単位数に加えて、学部独自の必修科目を設定することで、本学独自の教育を行っている。

「教職に関する科目」をはじめ、「教育の基礎的理解に関する科目」のそのほとんどがアクティブラーニングを取り入れるか、アクティブラーニング中心の科目内容であり、学生自身の課題発見・課題解決能力養成に寄与するとともに、自分が教員になった時に生徒に対してどのようにアクティブラーニングを行わせるかを体験的に学ばせる。

「教職実践に関する科目」に位置づく「教職実践演習」科目においては履修カルテの完全記入を教職実践演習受講の条件としており、履修カルテに基づいて見いだされた課題を教職実践演習で補充するという構成になっている。教職履修カルテの記入状況・内容

を 教員が 学期ごとに確認し、必要に応じて個別指導を行っている。カルテの教員記入欄の担当は 学部・学科の教員で分担しており、学生の資質能力に応じたきめ細やかな指導が行われている。

【取り組み上の課題】

現在の教育実習規程において小学校実習については学内GPAおよび「教育法」履修規準を設けており、教育実習を行う上で必要な履修条件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導している。

しかし、中学校および高等学校実習においては実習学生規準がなく、実習前年度における「事前指導」のみを指標としているため判定が難しい場合が見受けられる。中学および高等学校実習について規準内容を見直す必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 本学ホームページ 教職支援室>教員採用試験実績
<<https://www.kyoai.ac.jp/career-support/teaching-support-office/>>
- ・ 2022年度シラバス
「学校フィールド学習A」
<<http://sy.kyoai.ac.jp/2023/906900.pdf>>
「キャリアプランニングⅣ（教職）」
<<http://sy.kyoai.ac.jp/2023/830401.pdf>>
- ・ 2022年度履修のガイド 共愛学園前橋国際大学教育実習取扱規則
<https://www.kyoai.info/?page_id=544>（学生用サイト）
- ・ 2022年度 教育実習の手引き

◆基準項目3-2 実践的指導力養成と地域との連携

【状況説明】

実践的指導力育成への寄与という観点から特に教育実習や教職実践演習が重要な科目と位置づけられている。教育実習に関しては、事前事後指導と現場実習とを一体的に捉えて、特に事前指導はその時点での課題発見と補完という、プレ教職実践演習的な学習を行い、教育実習が実りあるものとなるように図っている。また、教職実践演習は3～4名程度の教員が授業を受け持ち、さらに共愛小学校校長、伊勢崎市教育長をゲストスピーカーに招くなど、この科目の趣旨を十全に果たせる体制で運営している。

教育実習における担当教員の実習校訪問を原則とし、学生の指導のみならず、実習校の要望を聞き取り、教育実習の充実を図っている。

実習開始前までに本学「教育実習の手引き」を進呈し、実習校の教育課程に合わせて取り扱ってもらうようお願いするとともに、実習に盛り込んでほしい内容を伝えて、問い合せに応じている。小学校への訪問は、地域ごとの担当地域区分に応じ、児童教育コースの教員により実施。中学・高等学校への実習訪問は、3年次ゼミ担当教員が行っている。訪問指導担当教員には、訪問指導要領を配信し、詳細を説明し、連携を図って対応している。

【長所・特色】

伊勢崎市教育委員会及び前橋市立筑井小学校との連携により、小学校現場にて一週間程度の実習活動、半期ごとに振り返り学習を必修としている。早い段階からの学校現場体験の機会を設定し、将来に実践力のある教員の育成を図っている。

また、地域における学びについては、本学が所在する前橋市教育委員会とは2008年に「共愛学園前橋国際大学と前橋市教育委員会との連携に関する覚書」を取り交わし、それに先立つ2006年には「前橋市立筑井小学校と共愛学園前橋国際大学との地域連携協議会覚書」を、隣接市の伊勢崎市においては「共愛学園前橋国際大学と伊勢崎市教育委員会との四ツ葉学園中等教育学校をはじめとする伊勢崎市立学校の教育活動への支援に関する覚書」を交わし、本学は伊勢崎市立学校のカリキュラムパートナーに位置づいている。これらの連携関係において、教育実習の受け入れ、教職インターンシップ、学校支援ボランティア等が盛んに行われている。

いくつかの特徴的な取り組みを例示すると、前橋市立筑井小学校においては、「学校フィールド学習」という授業が展開されている。この授業において、本学学生は2年次と3年次に1回1週間ずつ同小学校に通い、教職員の補助や児童の学習支援を行いながら、学校教員の職務を体得することとなる。同小学校にはよって、年間を通して本学学生が2名ずつ常駐することとなり、実質的な学校支援にもなっている。さらに、同小学校では「児童英語教師養成プログラム」の「児童英語教育実習」として学生が放課後英語教室を展開している。また、前橋市教育委員会と連携し「Mキッズサミット」なる取り組みも展開されている。市内の小学生が集い、市内の様々なよさや課題を発見、発信する取り組みを半年にわたって展開する取り組みであるが、本学学生がファシリテーターとして多数参加し、小学生との学びを実質化している。加えて、前橋市とも包括連携協定を結んでいることから、生活に困難を抱える中学生の学習機会を確保するための寄り添い型学習支援事業を市内複数公民館で実施しており、本学学生が多数取り組みに参加している。伊勢崎市教育委員会においては、外国籍児童が多数在籍しているという群馬県の特徴を踏まえ、日本語教育拠点校への「日本語教室サポーター派遣事業」を展開しており、群馬県の教員に求められる日本語教育力や多文化理解力の涵養に寄与している。さらに、複数の学校で授業見学実習も実施している。さらに、伊勢崎市の小学生が本学に集い実施される「児童のためのグローバルワークショップ」の企画運営、同市の中学生の海外研修に同行する「海外研修サポートインターン」等の取り組みも展開されており、地域と世界を結ぶ教育の実践を体験する機会にも恵まれている。

両市教委とは教職員の連携も盛んであり、本学からはこれまでに前橋市教育委員会外部評価委員、前橋市社会教育委員、前橋市小中学校の適正規模に係る諮問委員会委員、前橋市立小中学校選択制検討協議会委員、前橋市立幼稚園充実検討委員会会長、前橋市教育委員会通学区域検討委員会委員、前橋市家庭教育支援連絡協議会会長、伊勢崎市教育委員会「教育改革・いせさき未来会議」委員、伊勢崎市立北小学校学校運営協議会委員、伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校評議員を派遣しており、両市からは、基礎演習における教職講演会講師、初等教科概説講師、教育実習事前事後指導講師、教職実践演習講師、免許状更新講習講師等が派遣されている。

本学は、現在、文部科学省「スーパーグローバル大学等事業経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」の採択を受けており「次世代の地域社会を牽引するグローバルリーダー」の育成に取り組んでいるところであるが、その柱の一つに「時代のグローバル人材を育成する人材の育成」を掲げており、先述の伊勢崎市教委とのワークショップや海外研修インターンはその一環である。今後は、学生が海外の学校で教育活動を展開するプログラムを構築する予定となっており、国際化する地域社会に有為な教員の育成がより充実していくこととなる。また、同じく文部科学省「地（知）の拠点整備事業」においては、教育委員会における長期インターンシップを計画しており、半年を目途とする長期にわたり教育委員会や学校現場でのインターンシップを通して、より実践力を有した教員の育成が可能となることを期待している（ちなみに、同事業の二次審査ヒアリングには前橋市教育長が同行している）。さらに、文部科学省「大学教育再生加速プログラム」においては、これら多岐にわたる教育プログラムの質保証システムが構築されることとなり、学生の学修成果の可視化と共に、カリキュラムの改善がさらに進むこととなる予定である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・本学ホームページ 教職支援室>教員採用試験実績
<<https://www.kyoai.ac.jp/career-support/teaching-support-office/>>
- ・2022年度シラバス
「学校フィールド学習A」
<<http://sy.kyoai.ac.jp/2023/906900.pdf>>
「キャリアプランニングⅣ（教職）」
<<http://sy.kyoai.ac.jp/2023/830401.pdf>>
- ・2022年度履修のガイド 共愛学園前橋国際大学教育実習取扱規則
<https://www.kyoai.info/?page_id=544>（学生用サイト）
- ・2022年度 教育実習の手引き
- ・岸 一弘・後藤さゆり・平岡さつき「実践的・実質的な教員養成への質的転換の取り組みーアクティブ・ラーニングで教員の資質の素地を形成ー」
『教員を育て磨く専門誌 SYNAPSE(シナプス) vol.42』2015（平成27）年2月号
（ジアース 教育新社）
<<https://cir.nii.ac.jp/crid/1521699230197925888>>
- ・『教員を育て磨く専門誌 SYNAPSE(シナプス) vol.42』2015（平成27）年2月号、ジアース教育新社

Ⅲ総合評価

共愛学園は 1888 年の開学以来、一貫して「共愛＝共生の精神」に基づいた教育を行っており、130 年以上の歴史ある学園には、子ども園、学童クラブ、小学校、中学校、高等学校、短期大学、そして 1999 年に開学した共愛学園前橋国際大学の建学の理念も、「共愛＝共生の精神」である。

群馬県という地域に育まれてきたコンパクト・ユニバーシティである本学は「地域」と共に生きていこうとしている。「地域の皆様に愛され、地域と共に生きる」こと、そして「地域を自分のこととしてとらえ、その未来を創ることができる人材」を育成することこそ、この地で大学教育を行う意味であると考えのなか、コンパクト・ユニバーシティの特色に基づく教員養成が教職センターを中心とした教職課程の管理運営の下で組織的に実施されている。

教職課程は教職センターによって、カリキュラム運営、実習等連携運営、キャリア支援などが組織的に進められている。また教員支援室を中心に学生のキャリア支援のための多様な活動が計画的に提供されている。

本学の教職課程について、基準領域 1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」、基準領域 2「学生の確保・育成・キャリア支援」、基準領域 3「適切な教職課程カリキュラム」の 3つの視点から各学部・学科において自己点検・評価を実施した。その結果、いずれの学部も教員養成に対して真摯に取り組んでいることがわかった。

児童教育コースでは、教職課程の科目の多くが卒業に必要とされている科目に算入されており、教職課程を履修しやすいカリキュラムとなっており、多くの学生を小学校教員として送り出している。一方において、他コース学生については教職課程に伴う課題を抱え、その問題点の解消・緩和の対策は必要とされている。教職課程履修者の教育免許取得の増加、および教員就職者をさらに増加させること、さらには教員として優れた資質を有する学生の教職課程の履修への勧誘なども今後の課題となる。

多様な学生が集い学び合う場としての教職課程の履修を通じて、広い視野を持ち高いコミュニケーション能力と確かな行動力を備えた、人間性豊かな教員養成は、本学の特色的な教員養成として今後も維持・発展させたい。

IV「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

2021年11月に開催された教職センターの前身である教職課程運営センターにて、2022（令和4）年度より、教職課程の自己点検・評価を行う必要があり、教職課程運営センターと教職グループを合算した教職センター新設、実施主とすることが承認された。その後、2022年度分の「教職課程自己点検評価報告書」の作成に向けた流れについて2022年5月の本センター会議で報告書の概要について報告した。

6月以降、教職センター所属職員が原案を作成し、教職センター課員および担当部署において検討し第一次原案を確定した。その原案を各関係担当課にて検討・修正しとりまとめ承認された。

VI現況基礎

データ一覧

令和4年4月1日現在

設置者 学校法人共愛学園					
大学・学部名称 共愛学園前橋国際大学・国際社会学部					
学科やコースの名称（必要な場合） 国際社会専攻 英語コース、国際コース、情報経営コース、心理人間文化コース 児童教育専攻 児童教育コース					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数等					
①昨年度卒業者数		264 名			
②①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）		234 名			
③①のうち、教員免許取得者の実数 （複数免許取得者も1と数える）		32 名			
④②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）		15 名			
④のうち、正規採用者数		7 名			
④のうち、臨時的任用者数		8 名			
2 教員組織					
	教授	準教授	講師	助教授	その他（客員教授）
教員数	23 名	2 名	6 名		6 名
相談員・支援員など専門職員数 2 名					

